

Together, we make good sense.



2026年3月期 中間期 決算説明会資料

**未来のNOBLEを見据えて
抵抗器のNOBLEから新生NOBLEへの深化と進化**

2025年12月10日

エグゼクティブ・サマリー

◆ 事業環境

- インフレ圧力緩和が見られる一方、**米国、中国等諸外国の関税措置拡大が影響し**、依然不透明な状況が続く
- 自動車市場では電気自動車及び先進運転支援システムの普及が進展しており、関連部品は堅調に推移している
- 日本国内は円安の進行もあり、**継続的な物価上昇による**個人消費の抑制も見られ先行き不透明
- 産業機器市場ではF A 機器関連や半導体関連において在庫調整が進展し、需要持ち直しの傾向にある

◆ 26/3期中間期業績実績と通期業績予想

- 26/3期中間期は、増収となったものの、増収幅は想定を下回り、人件費等のコストアップを吸収できず営業減益
- 26/3期の下期為替相場を1 USD140円から145円に見直し通期業績予想を試算
- 継続して自動化・省人化をはじめ、新製品投入を積極的に進めるが、中間期までの計画に対する未達分を下期で挽回する事は難しいと想定し、通期の業績予想を修正

◆ 中期経営計画の進捗と取り組み

- 26/3期は中期経営計画最終年度となり、最終年度の修正後業績予想達成により、5カ年計画は売上高、営業利益累計で達成となる
- 業績予想を修正したが、配当予想は修正せず

- 弊社の特長と強み
- 財務戦略
- 26/3期 中間期業績実績と通期業績予想
- 中期経営計画の進捗と取り組み

弊社の特長と強み

帝通の強み

幅広いニーズに応えるべく、独自のフィルム印刷と成型・プレス加工という2つの技術をコアに、設計・開発・アセンブリまで自社で一貫生産対応を基本に様々なオーダーにこたえられることが私たちの強みです。



製品設計

お客様のご要望に合わせて製品設計を行います。

金型設計

金型の設計・加工を自社で行います。

スクリーン印刷

フィルム・PCB基盤への印刷を自社で行います。

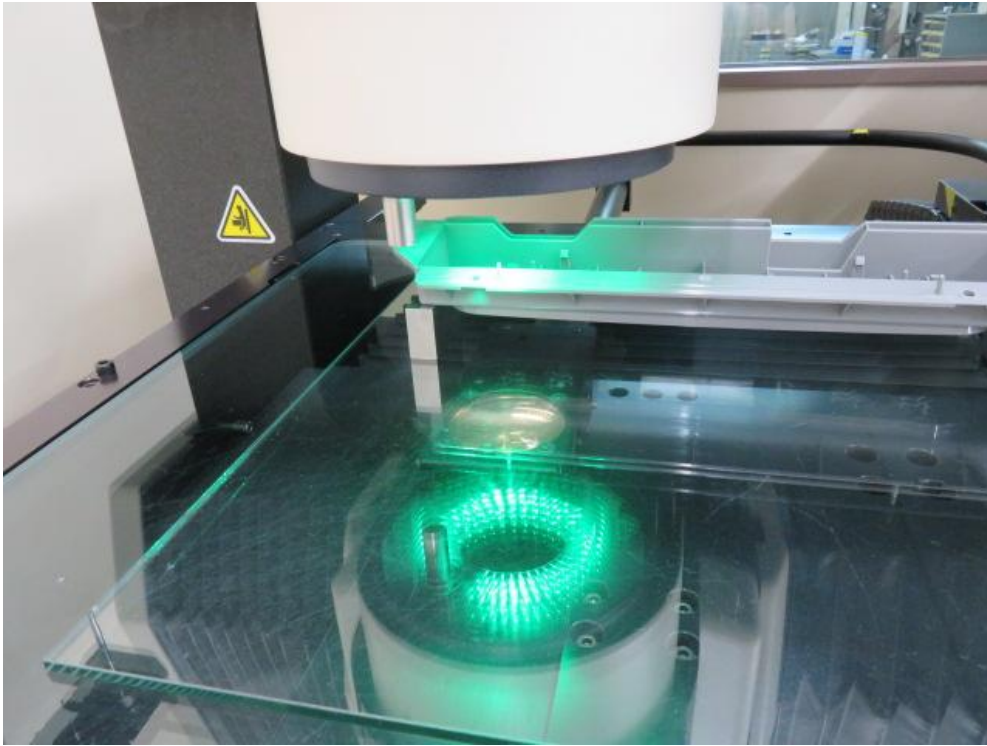
加飾・成型・プレス加工

加飾およびモールド成型、プレス加工を自社で行います。

組立加工

部品製作・生産設備構築をはじめ、組立加工を自社で行います。

内製化された金型 In-house produced molds



弊社では、自社で使用する成型金型およびプレス金型について、**設計から加工までの全工程を自社内で一貫して手掛けております。**また国内外に金型加工部門を保有しており、弊社独自の生産方式に最適化されたオリジナル金型の製作が可能です。これにより、**高難度な一体成型や高精度な部品加工にも対応することができます。**

スクリーン印刷 Screen printing



NOBLE FPC※1

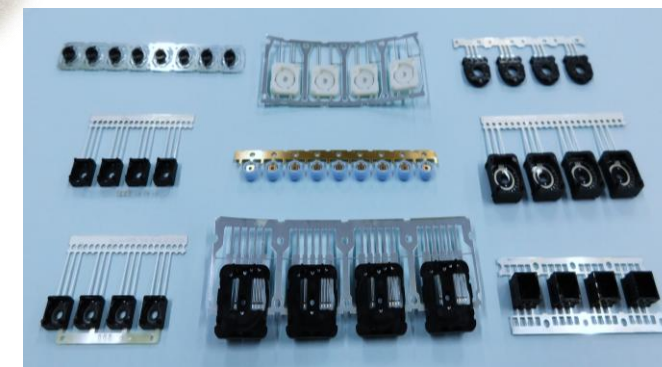
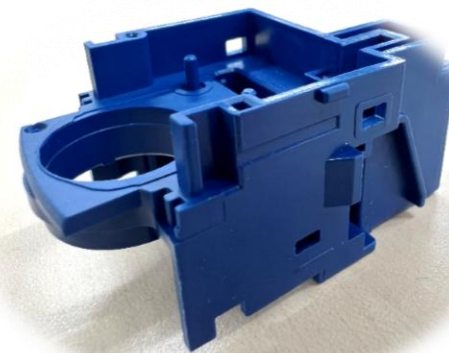


弊社のスクリーン印刷技術は、PETフィルムなどの軽量・薄型素材に、電気回路のパターンを直接印刷することが可能です。これにより、より「小さく」「薄く」「軽く」が求められる電子機器向け部品のニーズに応えることができます。また、その技術と品質はお客さまから高い評価をいただいております。アミューズメント機器、カメラ、医療・ヘルスケア機器など幅広い分野で採用されています。

樹脂成型 Injection molding



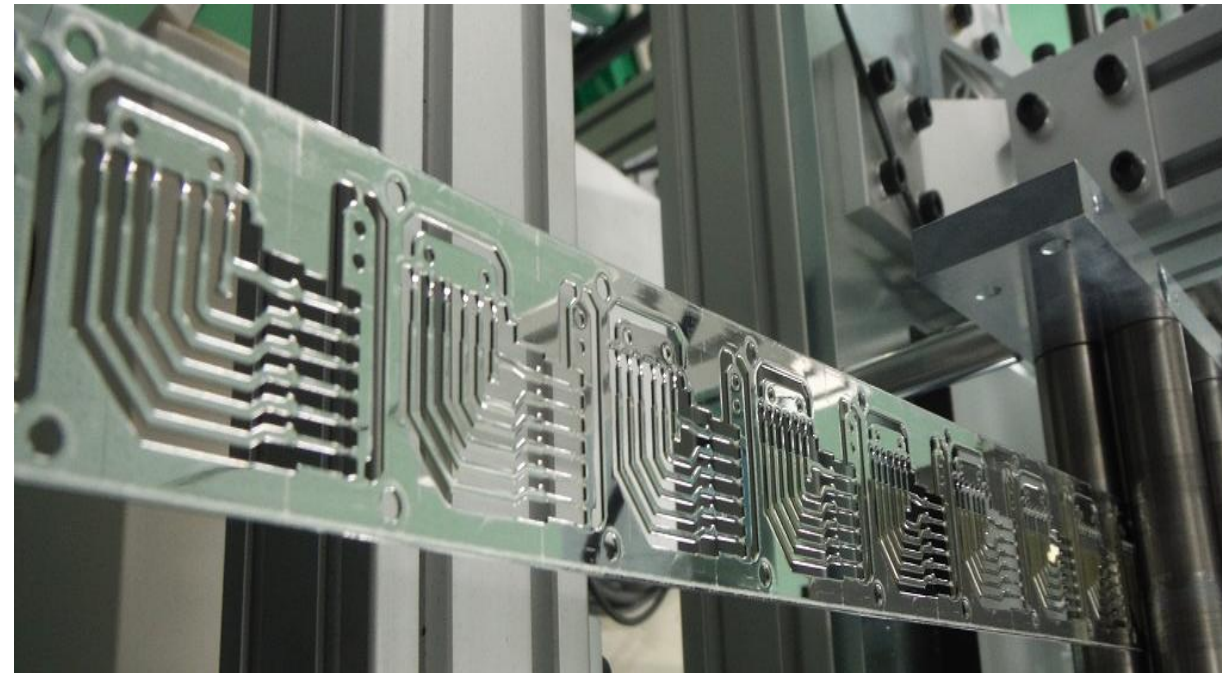
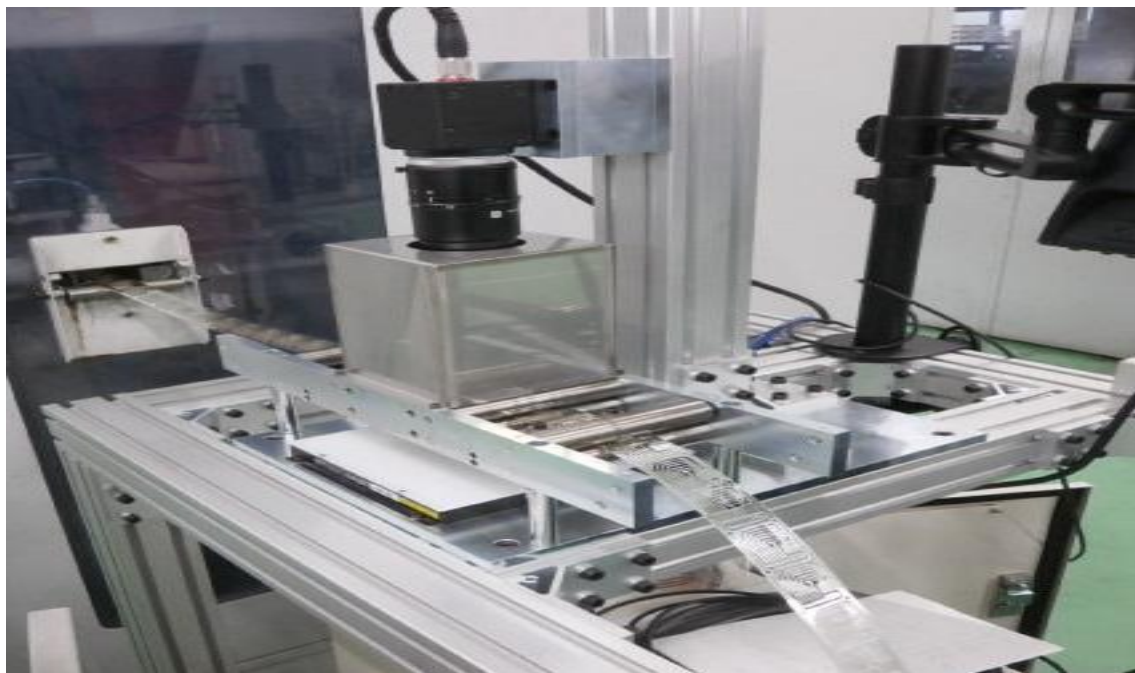
＜国内外に各種樹脂成型機を保有＞



＜インサート成型＞

樹脂成型のための材料選定や金型設計も自社で一貫して行っているため、さまざまな市場ニーズに応じた精密機構部品や大型外装部品の生産、成型部品への塗装や加飾にも対応可能です。また、**FPCや端子を成型樹脂で一体化する独自のインサート成型技術は、お客さまから高い評価をいただいております。**

プレス加工 Precision Press



プレス加工は幅広い分野のお客様に向けて微細かつ高精度な加工ができるラインを保有しております。最新のプレス機、独自の設備や加工技術を活かし、安定して高品質な部品を提供できます。プレス加工で使用する金型は、生産ノウハウを織り込んだ自社設計・製作を行うことにより、多様なニーズに対応できます。

帝通の特長と強み①－自動組立・品質保証

生産技術力による自動化・省人化 Automating production through production technology



弊社は**高い生産技術力による工程の自動化・省人化を強み**としております。

弊社の自動化・省人化への取り組みは、**単なるコスト削減のためだけではなく、高品質な製品の安定供給を可能**にしています。



自動印刷機
+ 電気チェッカー

+



画像検査

+

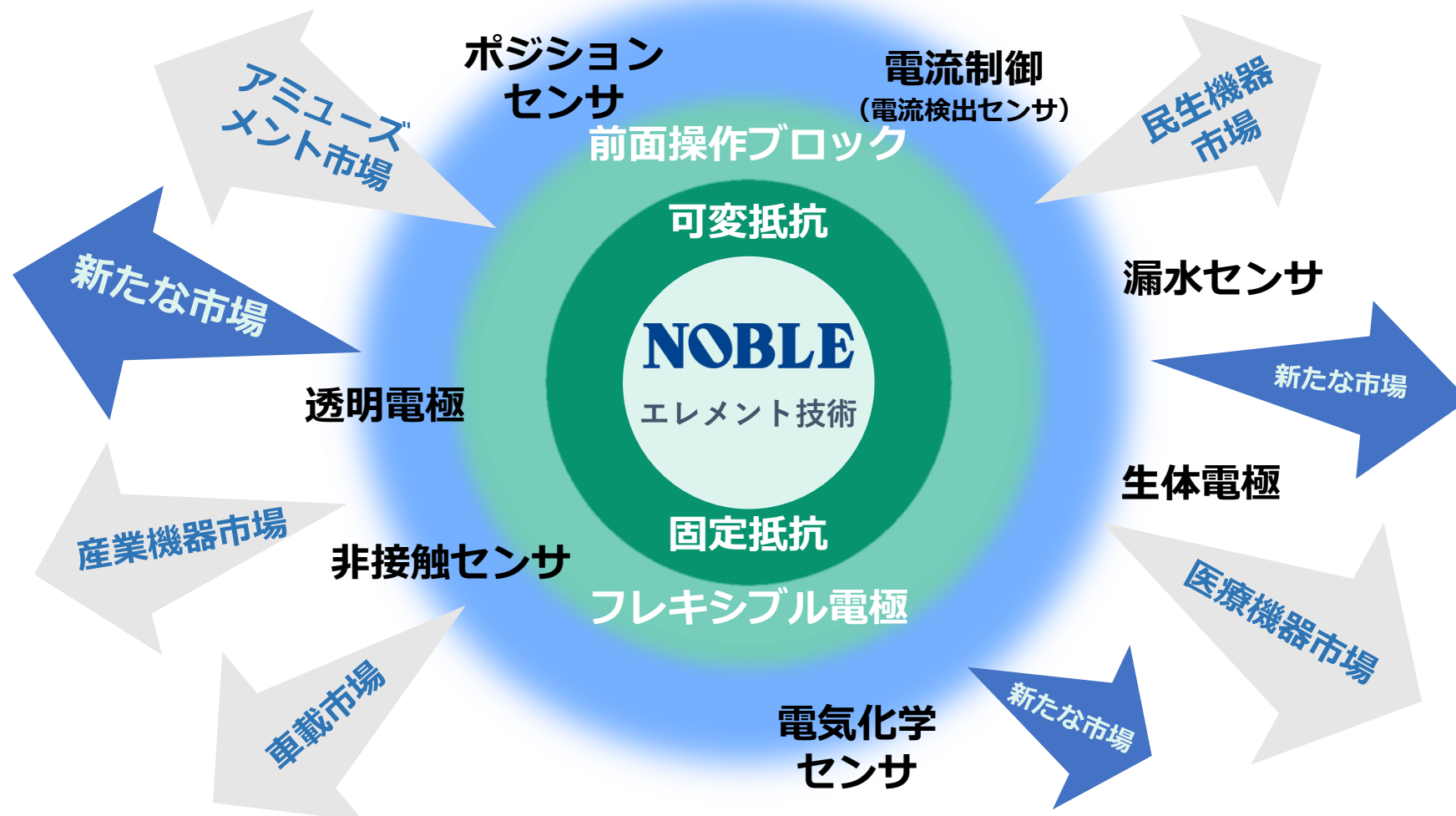


認定検査員による検査

国内外の工場では、画像検査や電気チェッカーによる自動検査と、認定検査員による厳格な検査を組み合わせることで、**高い品質を保証**し、お客さまの信頼を得ています。

エレメント技術で 既存市場から 新市場への展開

エレメント技術をベースに
80年の歴史を育む
NOBLEのセンサで
社会に貢献し続けます。



帝通の特長と強み②－エレメント技術の深化

2030年以降も見据えた課題

新エレメント技術による
新領域の開拓

2030年までの課題

既存技術の応用による
製品設計・市場開拓

②新たな技術

選択肢

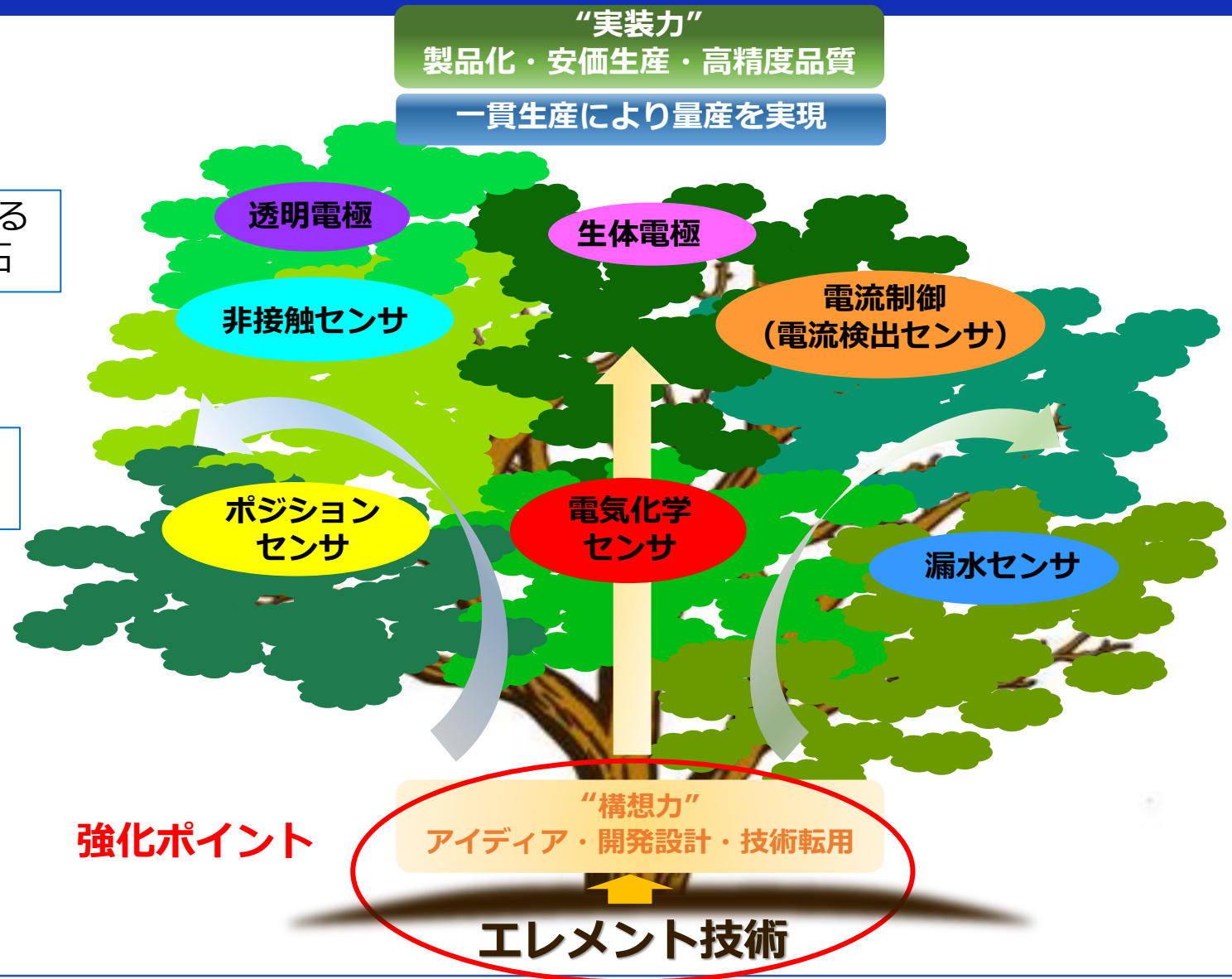
①更なる高度化

- ①独自のエレメント技術の更なる高度化
- ②現状とは全く異なるエレメント技術の革新

強化

我が社のエレメント技術の定義

抵抗体を印刷する工法・印刷された抵抗体そのもの・印刷を可能にするインク調整技術等の総称



コア技術を活かした製品展開

ICB製品 (Integrated Control Block)



カスタムブランド

前面操作ブロックとして生産するICB製品は、当社独自のカスタムブランドです。NOBLE-FPCを中心とした集積モジュールは、各種マーケットからの独自要求に対応しております。

自動車



ドアミラーセンサー等

AV機器



AVミキサー等

アミューズメント ホビー機器



ラジコン等

家電機器



給湯器等

医療・ ヘルスケア機器



脳波測定機器等

事務機器 産業機器



製造設備等

ディスクリート製品



汎用電子部品



可変抵抗器



センサ (抵抗式)



半固定抵抗器



エンコーダ



スイッチ



固定抵抗器



プラグ

出展目的と戦略

- ✓ 当社のコア技術(スクリーン印刷技術等)を医療分野へ展開
- ✓ POCT (Point of Care Testing) 市場へのチャレンジ
- ✓ 次世代製品 (R&Dフェーズ)のニーズ探索と技術訴求

成果と反響

- ✓ 想定を上回るブース来場者数 (WELL-BEING : 347名, Medtec : 233名)
- ✓ 具体的な商談・共同開発案件を獲得
- ✓ 特にPETフィルム印刷技術への強い関心を確認

今後の展開

- ✓ 獲得したリード (引き合い)を早期の製品化・収益化へつなげる
- ✓ パートナー企業との共同開発を本格化
- ✓ 2026年も継続して医療・ヘルスケア展示会への出展を予定

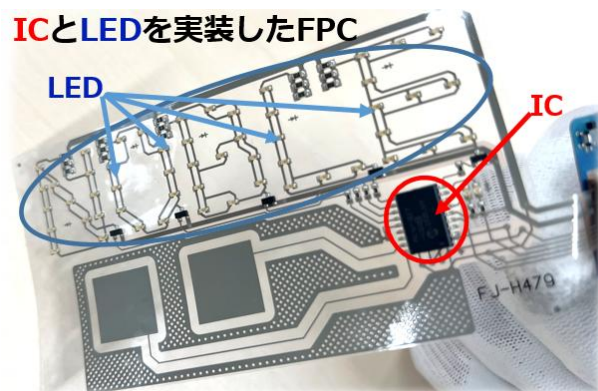
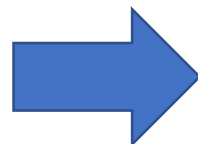


WELL-BEING TECHNOLOGY 2025 当社ブースの様子



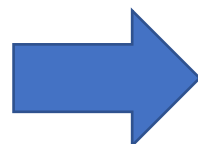
Medtec Japan 2025 当社ブースの様子

スクリーン印刷工法
+
低融点ソルダリングソリューション

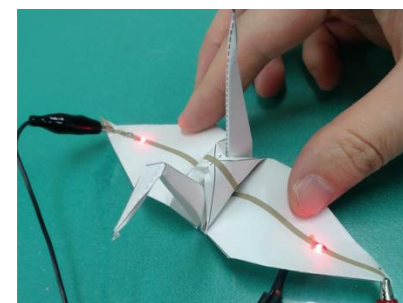
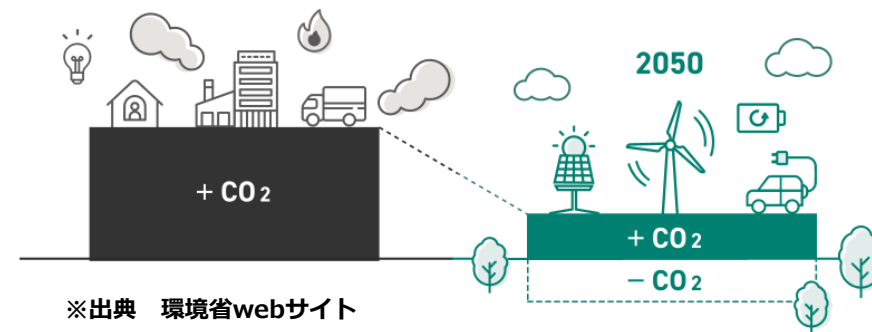


【開発中】

ベース基材の環境負荷低減



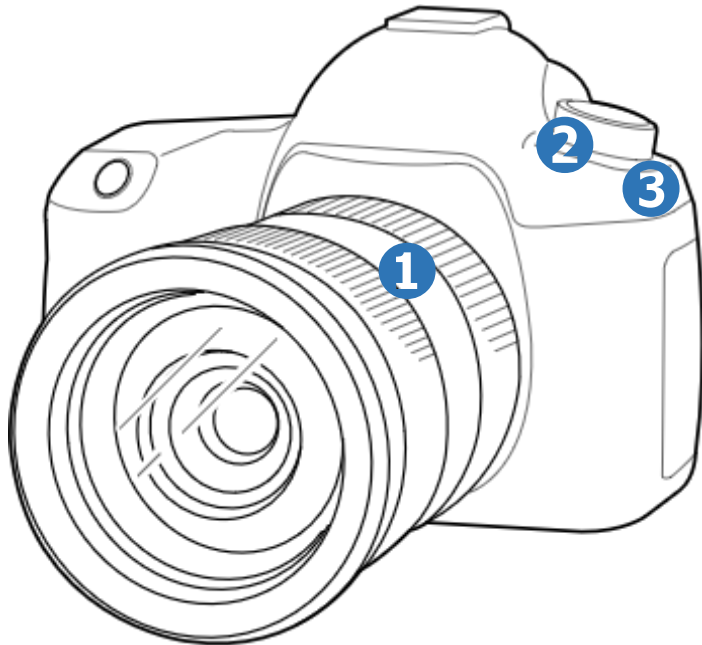
センサシートへの部品実装
製造時の廃棄物低減
製品製造時の消費電力低減



植物由来の
紙への回路形成
+
電子部品実装

コア技術を製品化した事例ーカメラ向け製品展開

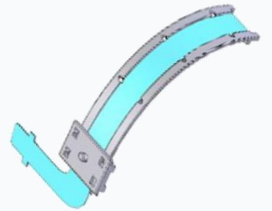
- カメラ需要の再拡大を支えるNOBLEのコア技術。カメラメーカーに多くの基幹部品を一括提供し、カメラの進化に貢献。



① ズーム・フォーカス曲面センサ

フィルムインテグレーション技術

PETフィルムに抵抗体を印刷し、可変抵抗器の**曲面しゅう動**を実現。高さ2mmの薄型化により、レンズユニットの小型・軽量化に貢献。



② 天面操作部スイッチユニット

高度なカスタマイズ性

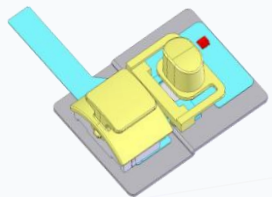
リリースボタン、モード切替、ズームレバー等の回路をフィルム上に印刷して構成。お客様のデザインに柔軟な対応が可能。



③ 操作部スイッチユニット

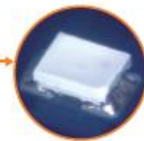
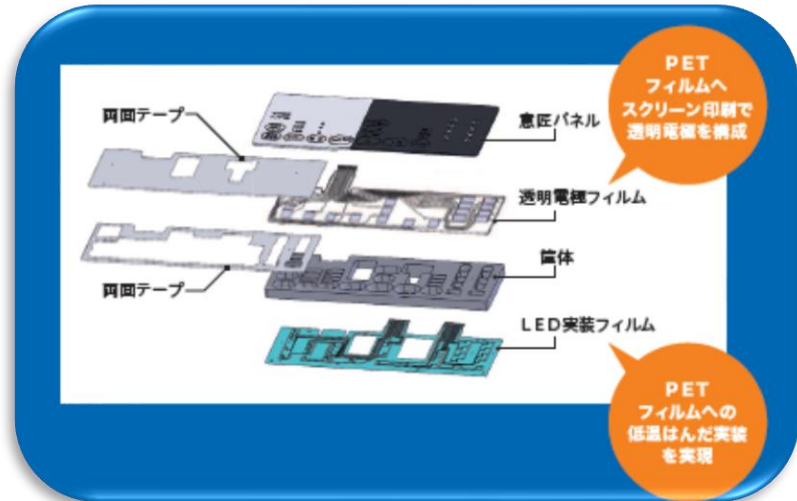
独自の一体化技術

スタート/ストップ、フォトボタン、ズーム等の回路をNOBLE独自のフィルム技術で構成。同時に外装部品と一体化することで、高感触・高品質な操作ユニットを実現。



コア技術を製品化した事例－透明電極タッチセンサパネル

透明電極タッチセンサパネルの展開



- ・スクリーン印刷で透明電極を構成
- ・透明な電極の為、スイッチ全体の照光が可能
- ・電極基板だけでなく、照光基板もPETフィルムで対応可能な為、意匠面デザインの曲面化など柔軟に対応することが可能

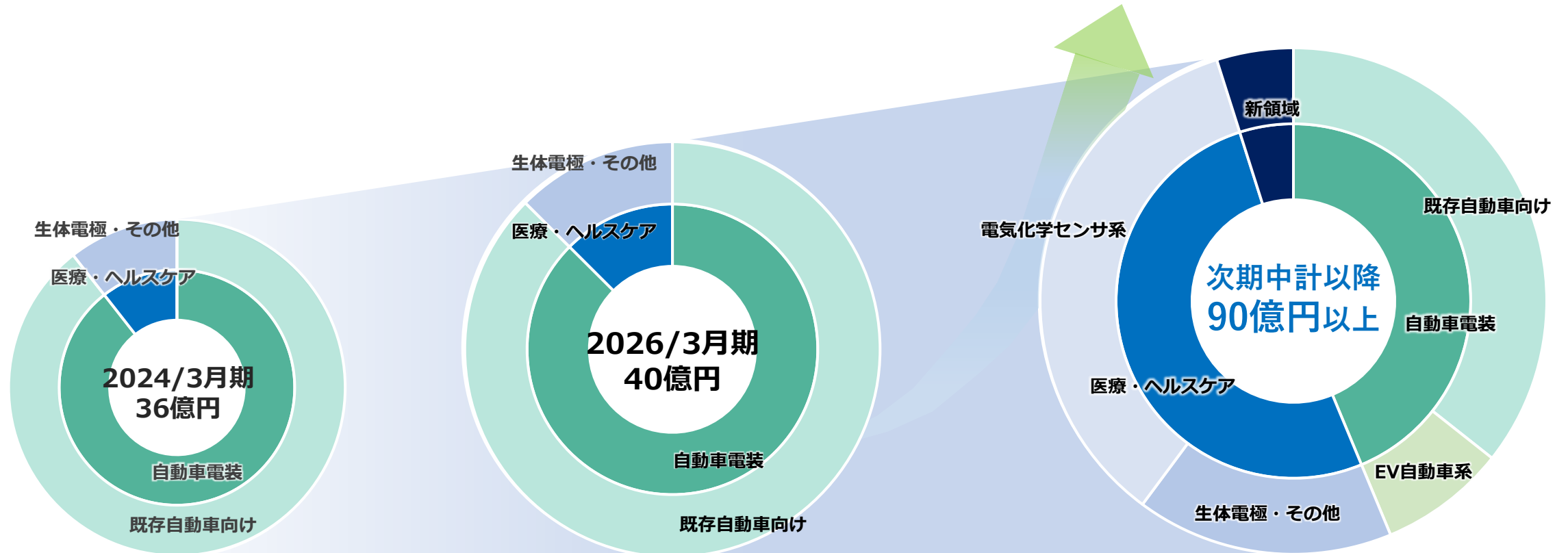


炊飯器などに展開しているが、その他の家電製品や自動車関係の新規受注成約

事業成長のための成長領域目標（次期中計以降）

- エレメント技術を基に、自動車電装／医療・ヘルスケアなどの新領域での成長を加速させる

自動車電装・医療ヘルスケア・新領域で目指す規模



財務戦略

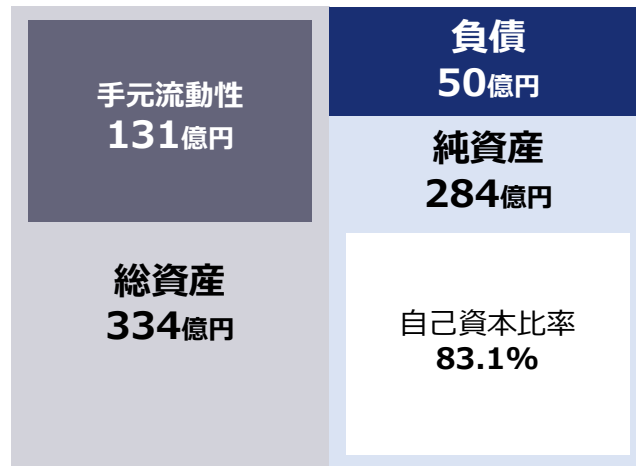
目指すべきバランスシート

- 資本収益性と財務健全性を両立した適切なB/Sコントロールを実施
- 自己株式取得の追加検討など、株主還元を通じた純資産の増加抑制にも取り組む方針

目指すバランスシートのイメージ

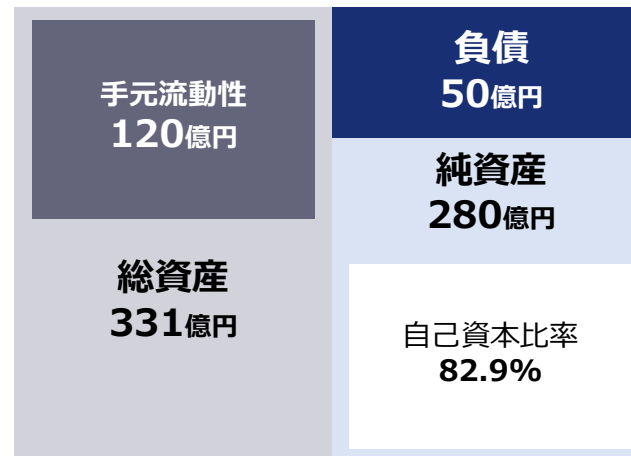
2025/3期 実績

- ・ 純資産増加
- ・ 自己株式取得の実施



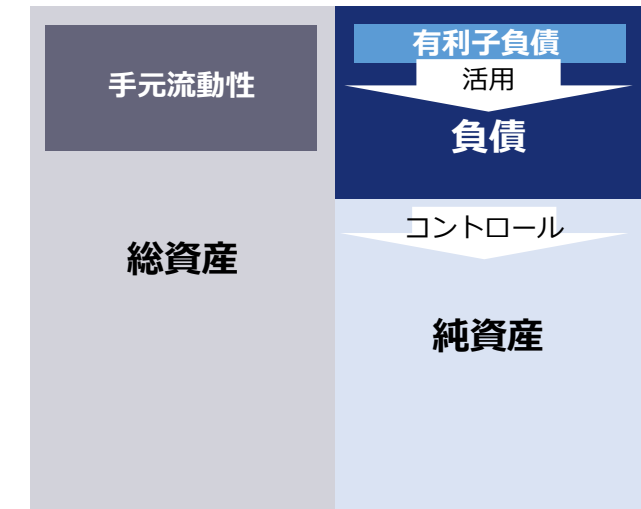
2026/3期 中間期 実績

- ・ 自己株式取得の実施
- ・ 資本収益性のさらなる向上を図る



中長期的に目指すBS

- ・ 有利子負債の残高をコントロールしつつ、財務健全性を優先
- ・ 株主還元を通じた純資産の増加抑制等にも取り組む方針



キャッシュアロケーション

- 将来の成長に必要な投資を優先的に実施することで、利益の増大や安定的かつ継続的な株主還元の実施による、中長期的な株価上昇を目指す

キャッシュアロケーション

今中期経営計画

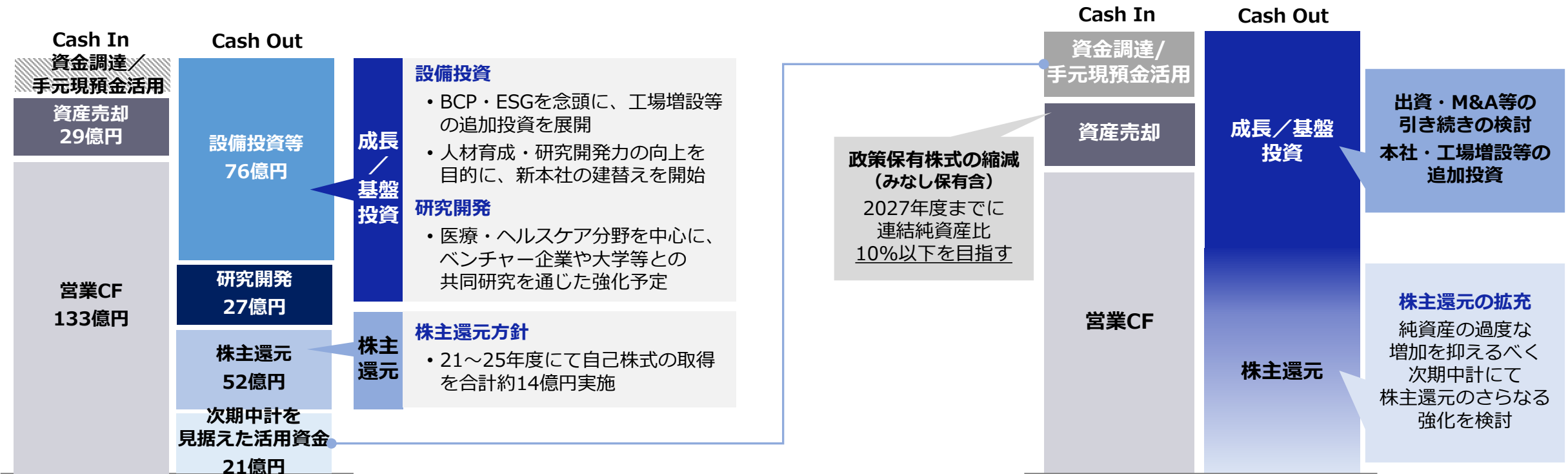
(2021年度～2025年度 累計)



次期中期経営計画

(2026年度～)

将来的な成長につながる投資と株主還元の充実による資本効率を重視し、次期中期経営計画に向け検討

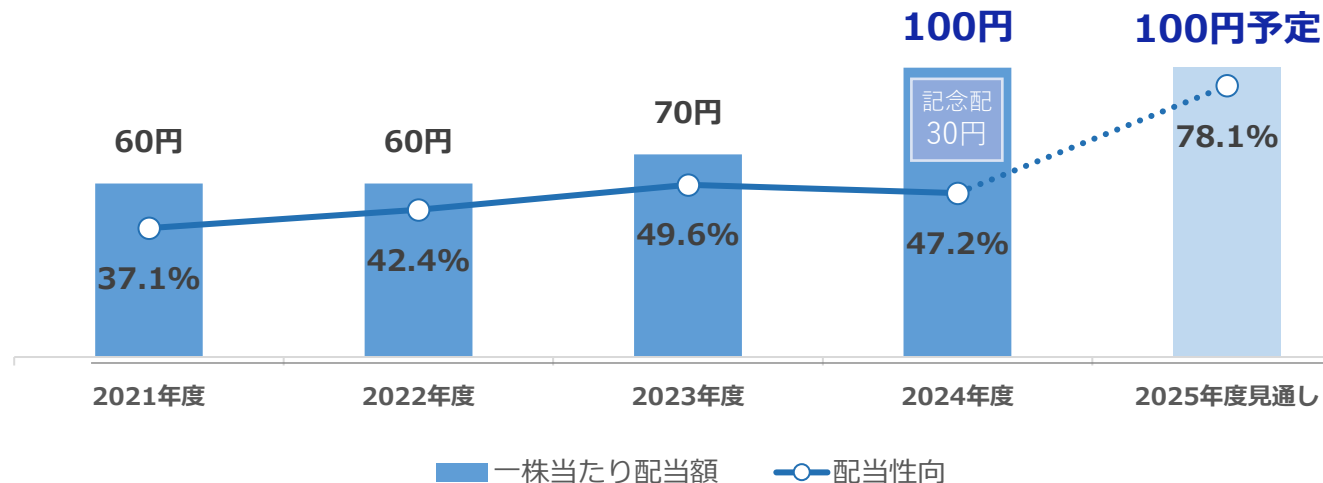


- 財務健全性や必要投資とのバランスを考慮の上、資本効率を意識した株主還元を実施

株主還元方針

配当実績

- ・ 業績に応じた配当を継続的に行うことを基本に、投資や財政状況等を総合的に勘案しながら、積極的に株主に利益還元する方針
- ・ 2024年度は当社創立80周年の年であり、普通配当70円（中間35円・期末35円）に記念配当30円を加えて、1株あたり100円（中間50円・期末50円）を実施
- ・ 2025年度においても1株あたり100円を維持予定



配当方針

次期中期経営計画期間

純資産の過度な増加を抑えるべく
次期中期経営計画にて
株主還元方針の見直しを予定

連結配当性向
50%以上目安

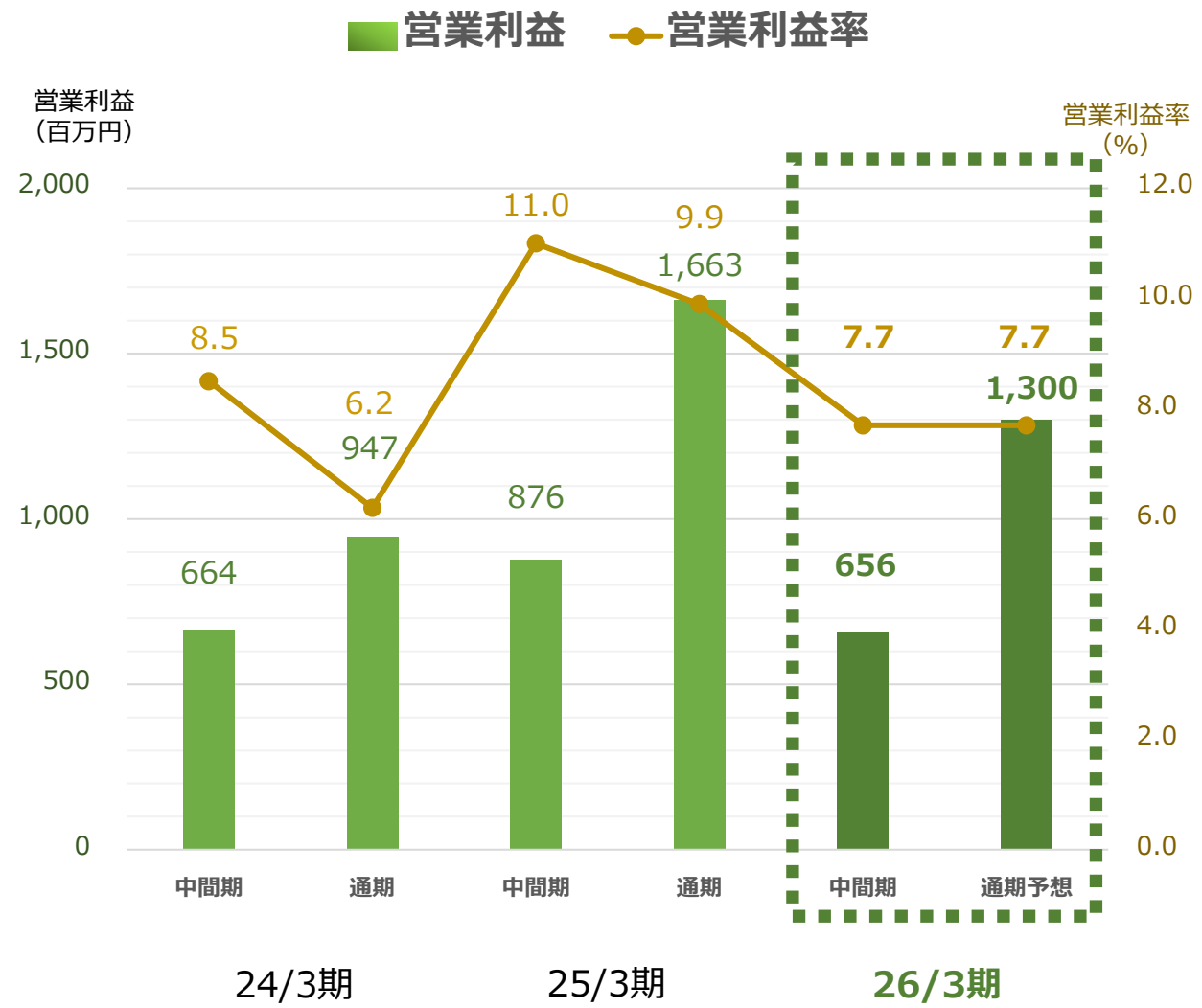
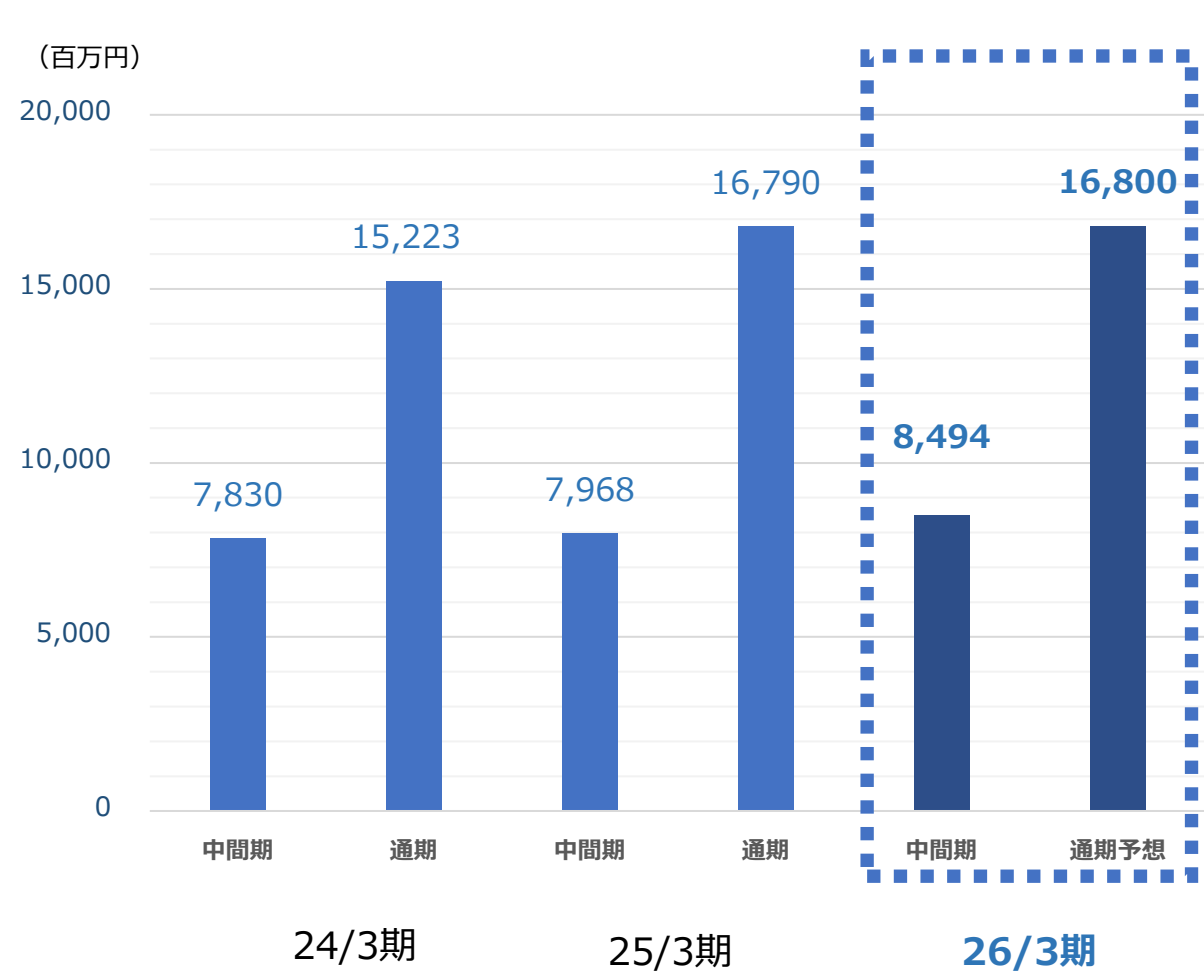
2026年度見通し

26/3期 中間期業績実績と通期業績予想

- ▶ 26/3期 中間期業績実績と通期業績予想比較
- ▶ 26/3期 中間期の利益増減要因分析（前年同期比較）
- ▶ 26/3期 通期の利益増減要因予想（通期前年比較）
- ▶ 電子部品セグメントにおける市場別売上高 26/3期 中間期と26/3期 通期予想
- ▶ 製品別売上高の26/3期 中間期実績と26/3期 通期予想

26/3期 中間期業績実績と通期業績予想比較

売上高

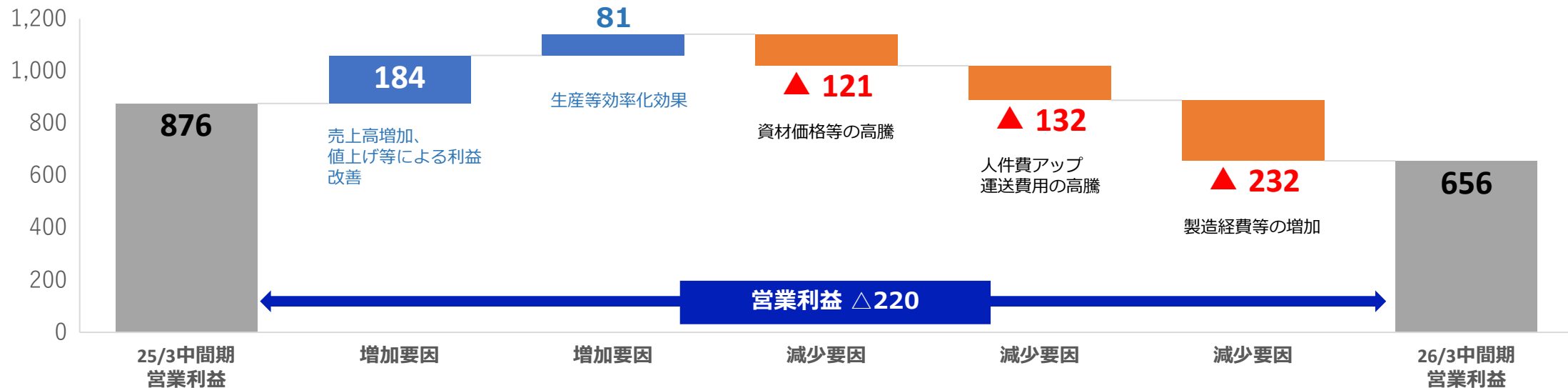


26/3期 中間期の利益増減要因分析（前年同期比較）

(百万円)	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比	
売上高	7,968	対売上高比	8,494	対売上高比	526	106.6%
営業利益	876	11.0%	656	7.7%	△220	74.9%
営業外損益	23	0.3%	92	1.1%	69	399.8%
(うち為替差損(△)益)	(△145)	-	(△78)	-	(66)	-
経常利益	899	11.3%	749	8.8%	△150	83.3%
親会社株主に帰属 する中間純利益	699	8.8%	446	5.3%	△253	63.8%

単位：百万円

連結営業利益増減要因（中間期前年比較）



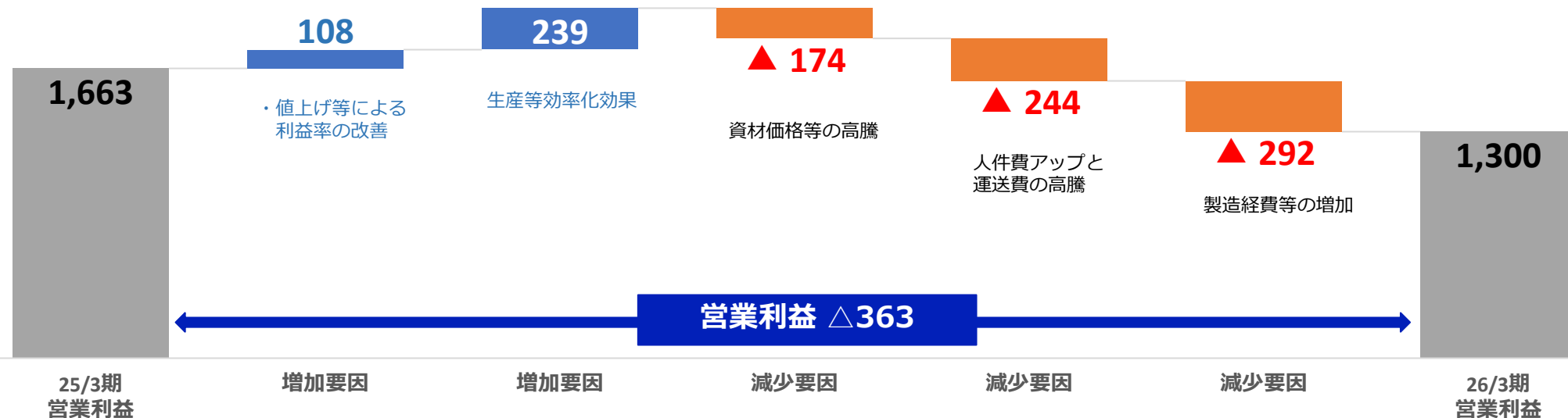
26/3期 通期の利益増減要因予想（通期前年比較）

(百万円)	25/3期			26/3期			前年同期比		
	上期	下期	通期	上期	下期見込	通期見込	上期	下期	通期
売上高	7,968	8,821	16,790	8,494	8,305	16,800	526	△516	9
営業利益	876	786	1,663	656	643	1,300	△220	△142	△363
営業外損益	23	440	464	92	7	100	69	△433	△364
（うち為替差損(△)益）	(△145)	(270)	(125)	(△78)	(0)	(△78)	(66)	(△270)	(△203)
経常利益	899	1,227	2,127	749	650	1,400	△150	△576	△727
親会社株主に帰属する当期純利益	699	1,310	2,009	446	753	1,200	△253	△556	△809

連結営業利益増減要因（通期前年比較）

単位：百万円

2,000
1,800
1,600
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0



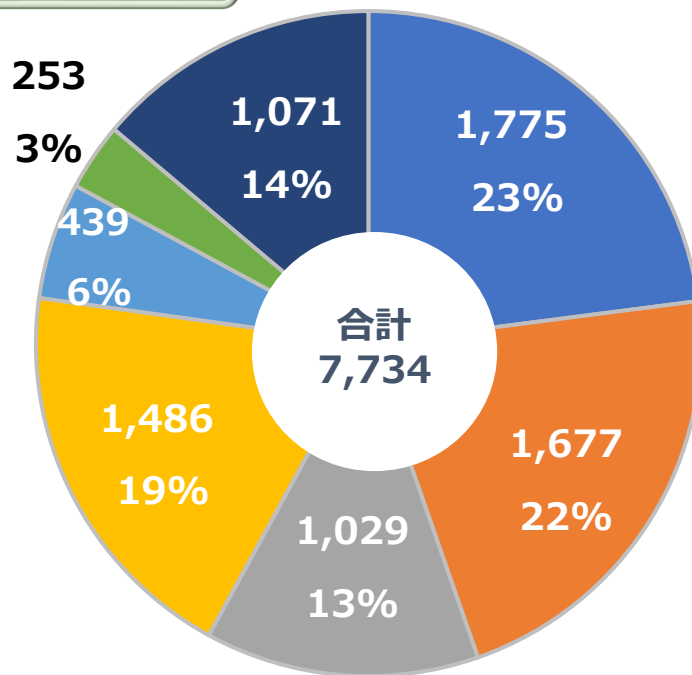
電子部品セグメントにおける市場別売上高 – 中間期比較

Together, we make good sense.



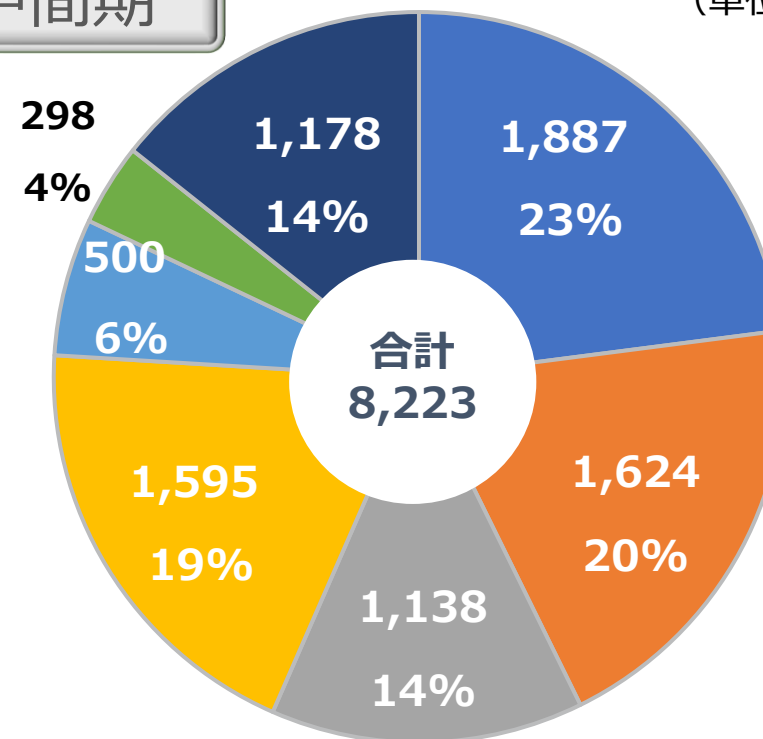
25/3期中間期

(単位：百万円)



26/3期中間期

(単位：百万円)

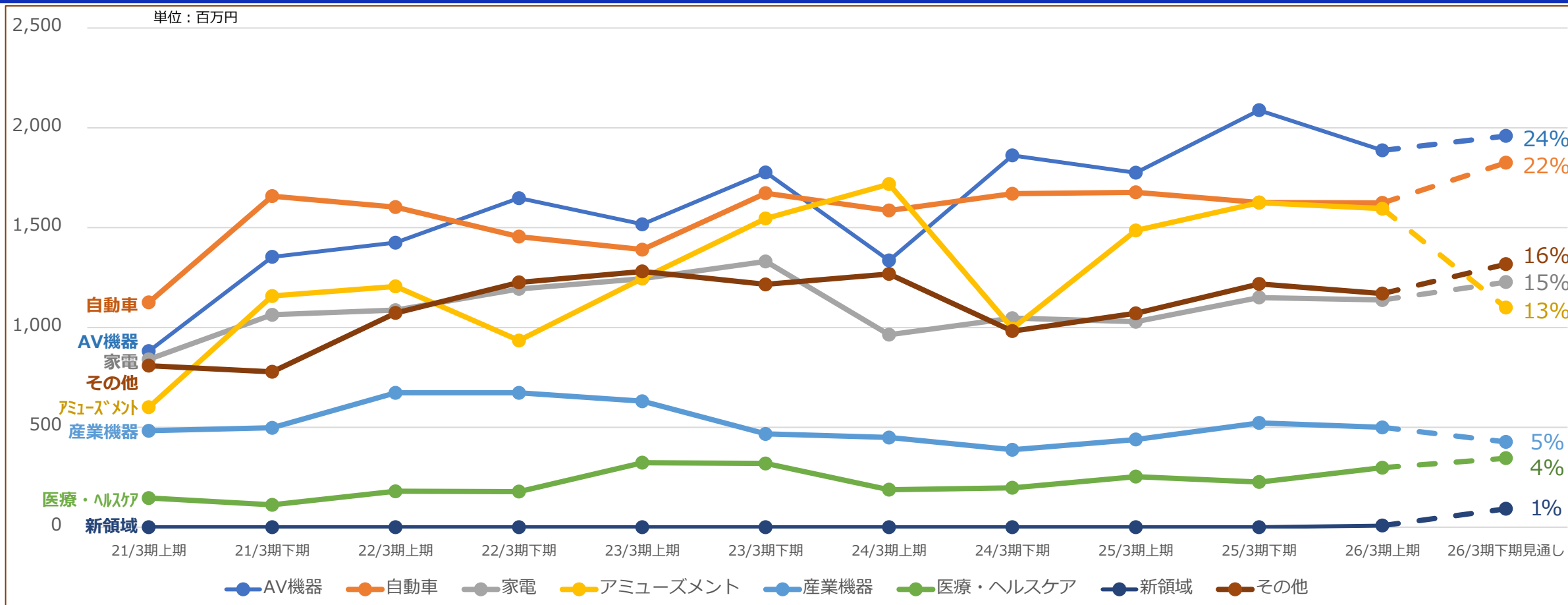


【各市場へ弊社製品を採用】

AV機器市場や家電市場においては、主に国内主要メーカーとの取引をしております。
自動車市場は、ティア1を中心に取引を行っており、他市場においても、EMSメーカーをはじめ、国内外を問わず、様々なお取引様方に、弊社製品をご採用いただいております。

電子部品セグメントにおける市場別売上高 – 半期毎推移

Together, we make good sense.



- 自動車、AV機器：市場需要に牽引され堅調
- アミューズメント：需要の波が大きく下期減少見通し
- 医療・ヘルスケア：市場は回復基調で、新製品も強化

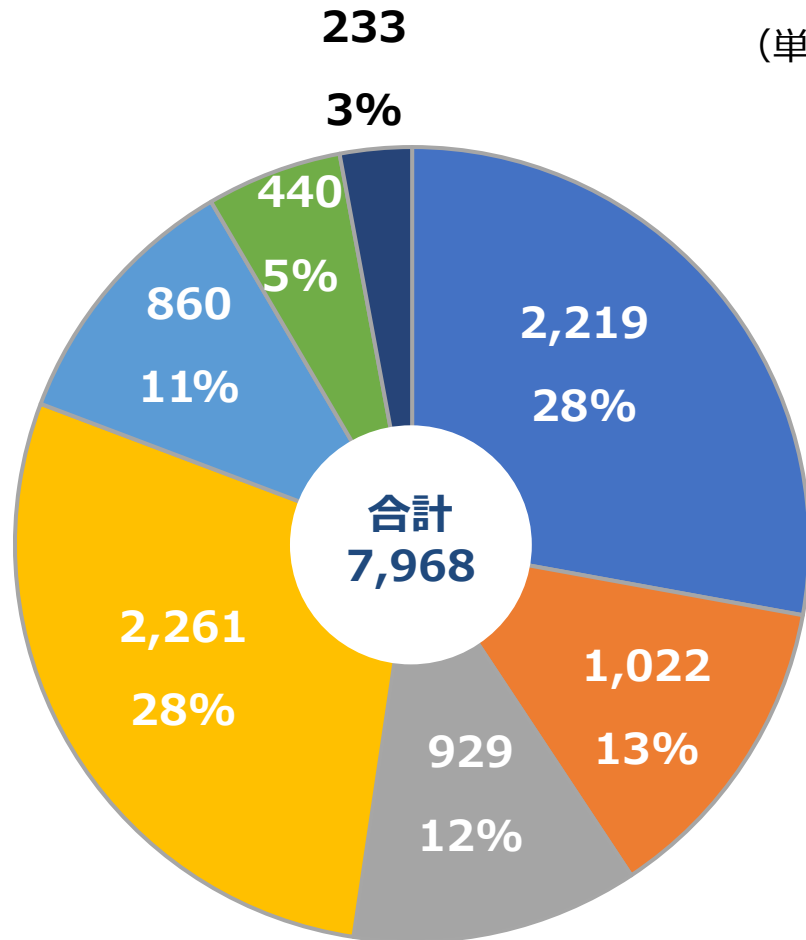
25/3下期	⇒	26/3上期	⇒	26/3下期見込
37億円	⇒	35億円	⇒	38億円
16億円	⇒	16億円	⇒	11億円
2.3億円	⇒	3億円	⇒	3.5億円

製品別売上高－中間期比較

Together, we make good sense.



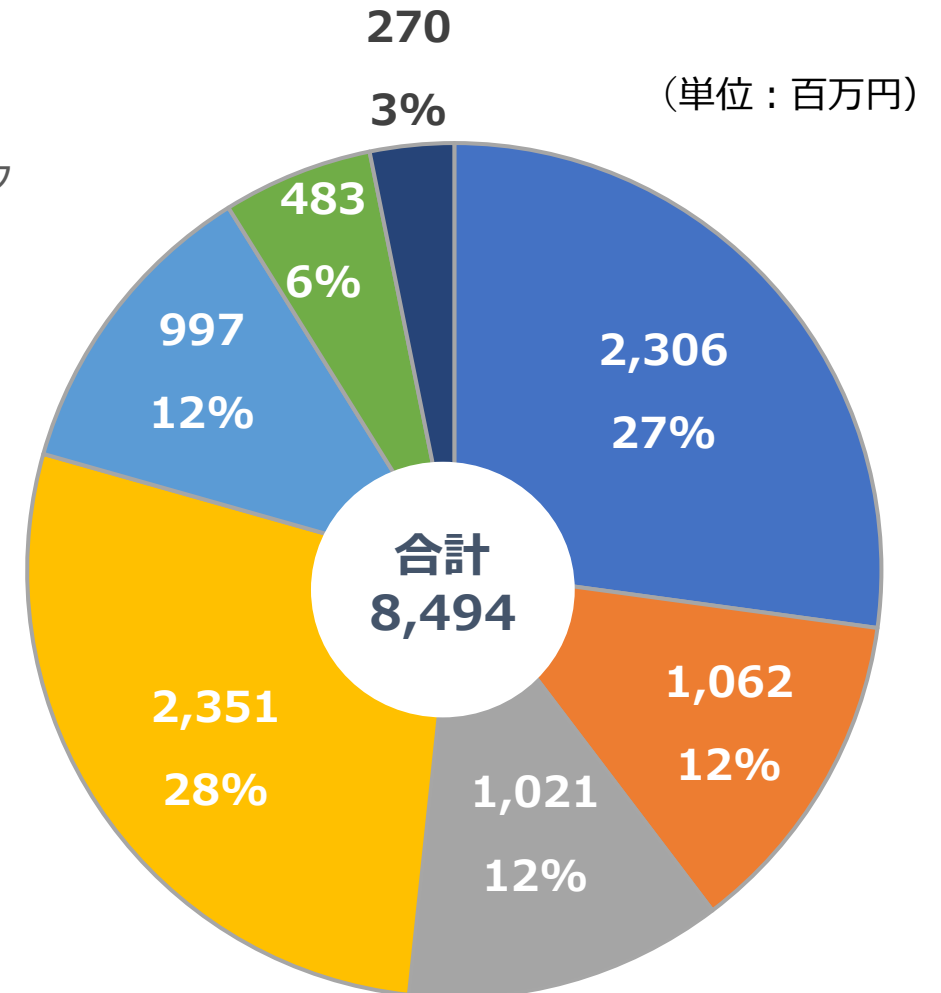
25/3期中間期



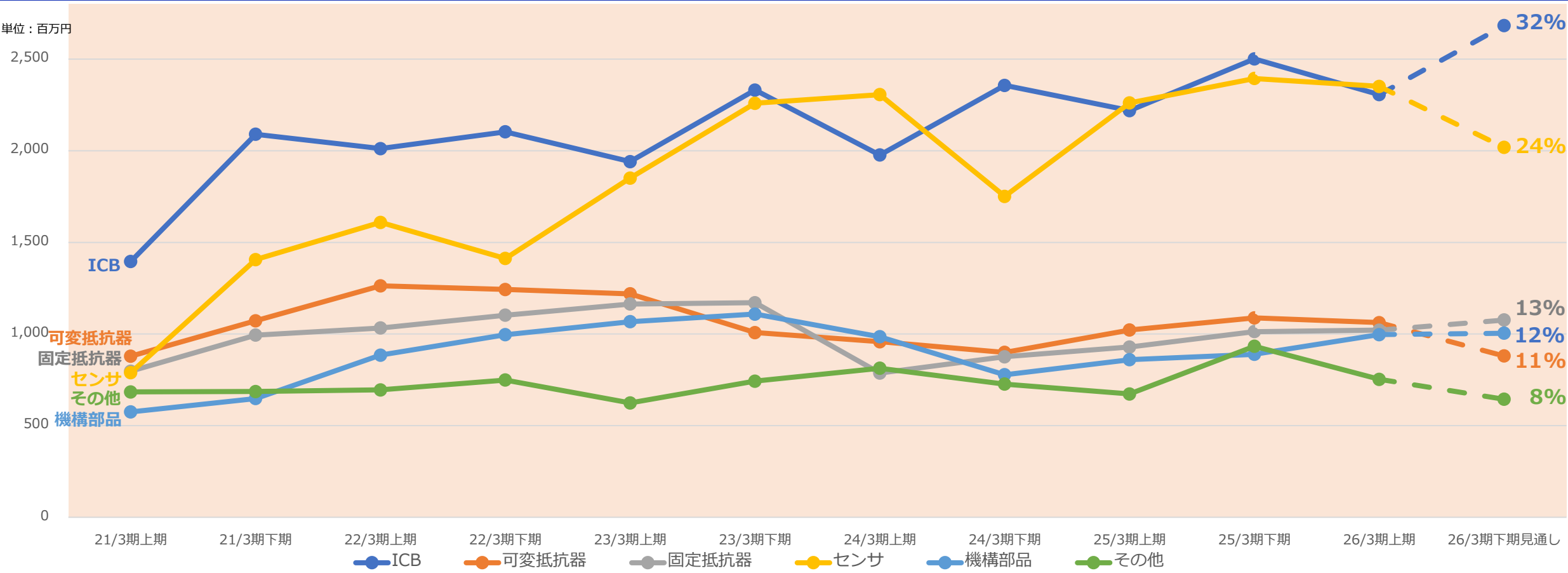
26/3期中間期

(単位：百万円)

- 前面操作ブロック
- (ICB)
- 可変抵抗器
- 固定抵抗器
- センサー
- 機構部品
- その他電子部品
- その他事業



製品別売上高 – 半期毎推移



➤ センサ：需要一巡し、下期減少見込み ➤ ICB：カメラ市場への売上が増加 ➤ 固定抵抗器、機構部品が回復基調	⇒	25/3下期	⇒	26/3上期	⇒	26/3下期見込
	⇒	23.9億円	⇒	23.5億円	⇒	20.2億円
	⇒	25.0億円	⇒	23.1億円	⇒	26.8億円
	⇒	19.0億円	⇒	20.2億円	⇒	23.3億円

中期経営計画の進捗と取り組み

- ▶ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
- ▶ 事業成長のための研究開発と投資
- ▶ IR戦略とESG

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 現状認識（株価・PBR・ROE）

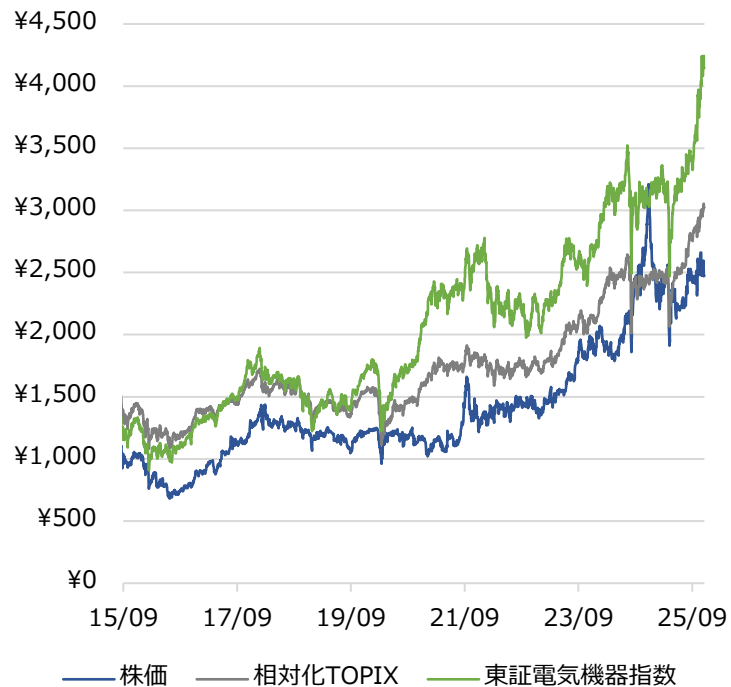
Together, we make good sense.



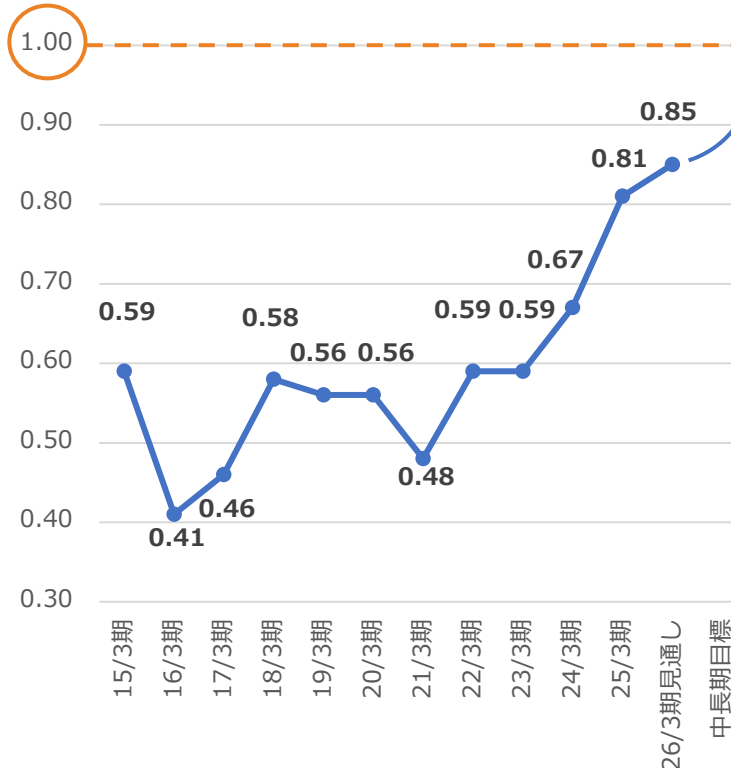
- PBRは1倍を下回って推移しており、企業価値向上に向けた積極的な取り組みが必要な状況と認識
- 株主資本コストを上回るROEを実現すると共に、中長期目標である8.0%達成を目指す

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

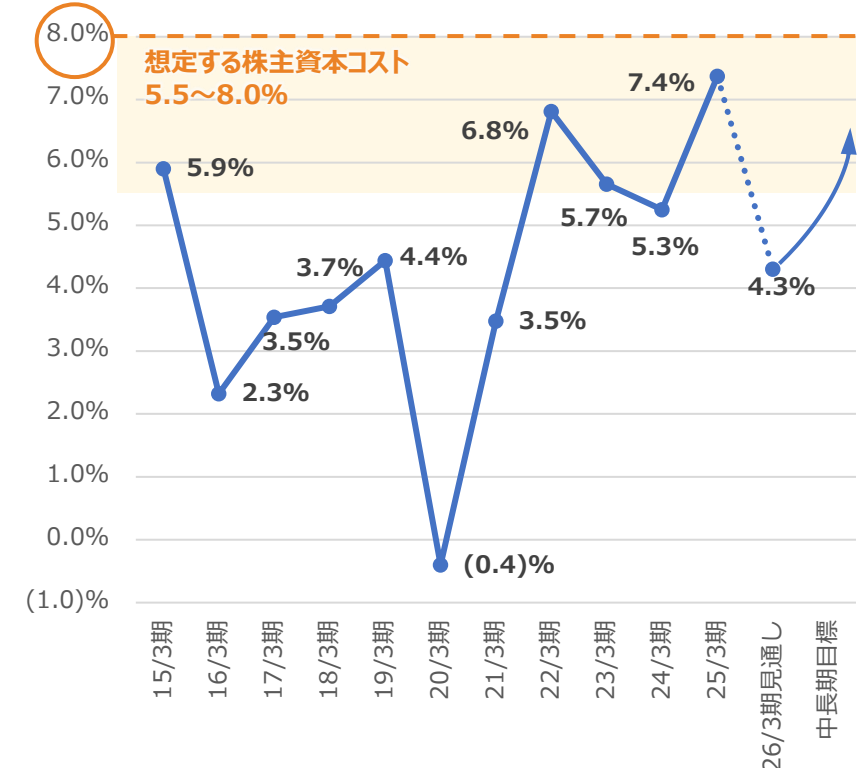
株価



PBR



ROE



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 企業価値向上に向けた方針

Together, we make good sense.



- 資本収益性の向上および市場評価の改善に向けた各施策を実行し、PBRの改善を目指す

現状分析と 課題

ROEは投資家が求める
株主資本コストを
下回る

過去10年において
TOPIXを下回る株価水準が続き、
PBRは1倍割れが継続

企業価値向上に向けた対応の方向性

資本収益性
の向上
(ROE)

収益力の
向上



資本の
最適化



市場評価の
改善
(PER)

マルチプル
向上

成長戦略

- ・ エlement技術の向上による医療・ヘルスケア分野
向けの技術確立
- ・ 新事業分野への進出(インフラ・
ウォータービジネス・アグリビジネス等)
- ・ 電気自動車・周辺機器向けへの拡販
- ・ 出資・M&Aの引き続きの検討

財務戦略

- ・ 中長期的に目指す純資産の水準も踏まえたバランス
シートマネジメントの検討
- ・ 安定配当の実現（自己株式取得の継続検討）

IR戦略

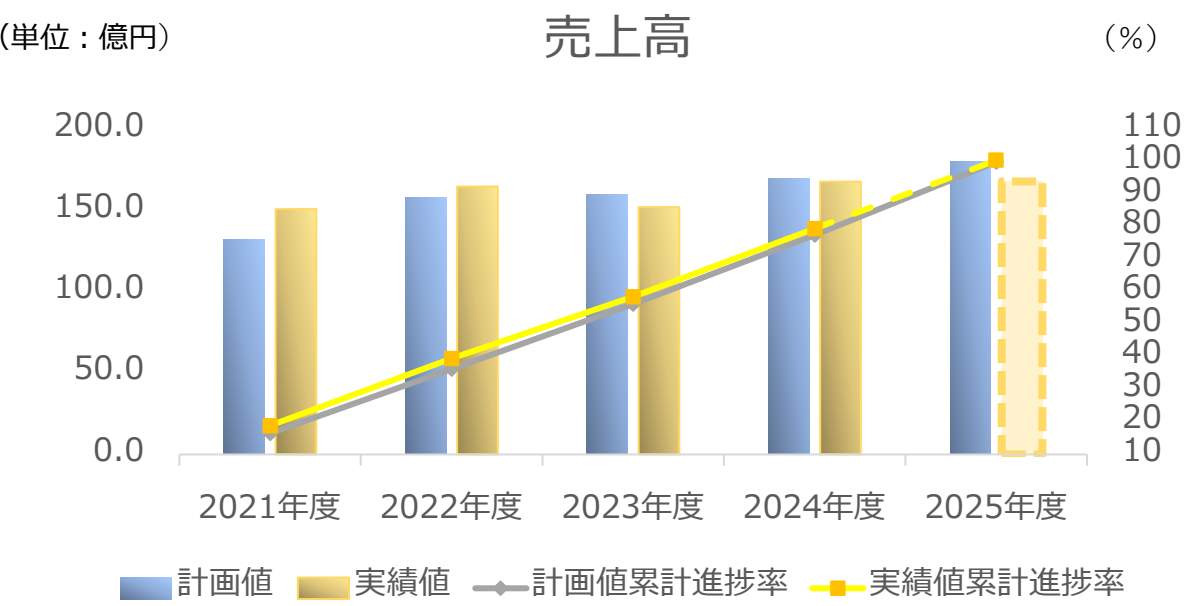
- ・ 積極的な情報開示による資本市場との対話拡充
- ・ 英文開示義務化への対応
- ・ サステナビリティへの取り組み拡充
- ・ 人材開発（経営幹部候補の育成 等）
- ・ 採用力の強化 等

エクイティ
スプレッドの
拡大によって
PBRの改善を
目指す

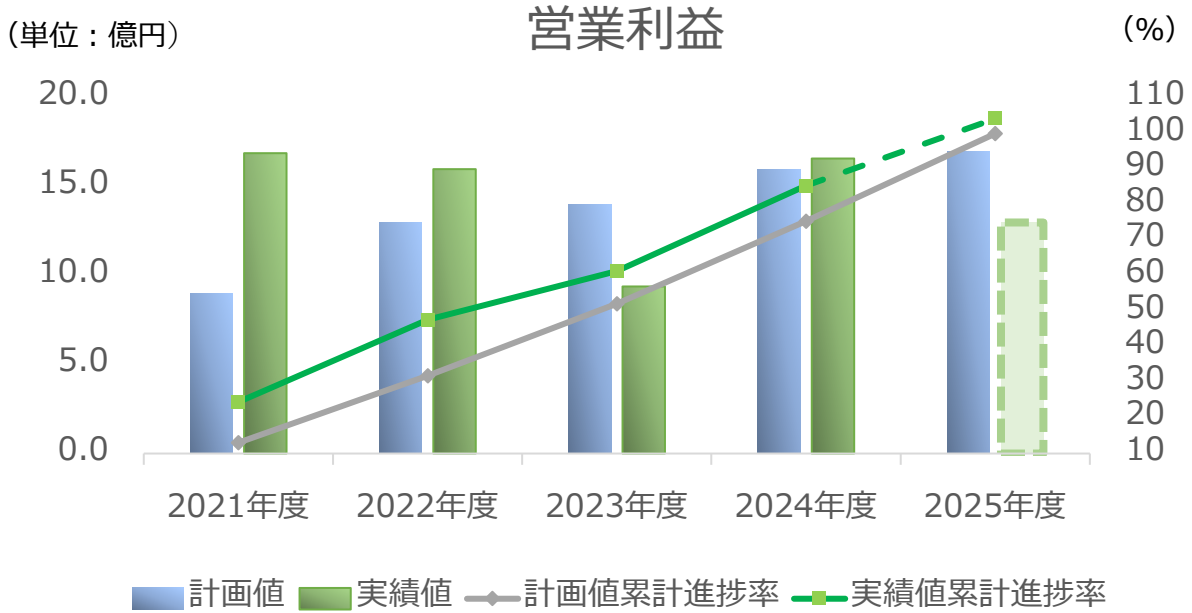
中期経営計画概要分析（修正版中期経営計画達成率）

修正中計に対する実績の概要分析：

- ①2021年度と2022年度はコロナ禍における特定市場の需要が旺盛であった
- ②2023年度後半から2024年度前半は特定市場の需要が低迷
- ③中計最終年度である2025年度の計画達成をもって5か年計画達成となる



	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
計画値累計進捗率	17%	36%	56%	78%	100%
実績値累計進捗率	19%	39%	59%	80%	101%



	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
計画値累計進捗率	13%	32%	52%	75%	100%
実績値累計進捗率	24%	48%	61%	85%	104%

事業成長のための研究開発と投資

- 今中期経営計画では中長期的な成長に向けた、基盤構築を行うべく、既存領域の拡大・新領域の模索および研究開発の深化に注力
- 次期中期経営計画では、模索した基盤を軸にした、さらなる収益力の向上を目指す方針

中長期的な成長に向けた基本戦略

今中期経営計画での取り組み

1 既存領域の拡大

既存業界への製品の横展開を目指す

- ・ セメント抵抗の拡販
✓ 省エネ分野（インバーター）、EV分野（車載・急速充電器）
- ・ 医療・ヘルスケア分野の横展開によるセンサの売上拡大
- ・ ソフト（回路）の拡充による既存顧客への売上拡大

2 顧客ニーズを捉えた新製品展開

顧客業界のニーズ・トレンドを捉えた新製品開発

- ・ 非接触スイッチ×産業機械（例：エレベーター）
- ・ ポジションセンサ×自動車（例：アクチュエーター）
- ・ 非接触ポジションセンサ×産業機械（例：サーボモーター）

3 新領域の確立 (チャレンジ分野)

環境の変化に合わせた新製品開発による新市場への展開を目指す

- ・ トrend分野への展開
✓ 5Gに関連した、通信・公共分野への参入
- ・ 社会課題解決への貢献
✓ MEMSなど新領域の医療・ヘルスケア分野、介護分野への参入

既存領域の拡大・新領域の模索

- ・ コア技術の活用による新製品開発
✓ 非接触スイッチ等の開発
- ・ 新技術領域の構築
✓ ソフト・回路・微細加工領域の構築
- ・ 販売力、マーケット拡販の強化
✓ 新規営業・提案型営業の強化
- ・ 品質の向上
✓ 求められる品質基準への対応
- ・ 生産性・付加価値の向上

環境に配慮した要素技術開発の深化 (研究開発活動の方針)

- ・ 通信関連やインフラ等の新規市場への展開
✓ スクリーン印刷技術や部品実装技術を
生かしたフレキシブルなIoTデバイス等の
開発
- ・ 医療・ヘルスケア分野における
POCT(Point of Care Testing)への注力
✓ 様々な物質測定に見込まれる
「電気化学センサ」の技術確立

次期 中期経営計画

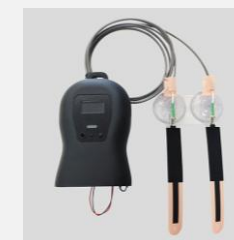
今中期経営計画で
の取り組みの強化と
さらなる収益力の
向上を目指す

研究開発活動の方針

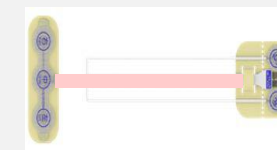
- ▶ 環境に配慮した要素技術開発に磨きをかけ、「エレメント技術」や「ICB技術」を応用した製品開発を目指して参ります。



- ▶ ヒューマン・マシン・インターフェースとしての新しいデバイスの開発と、スクリーン印刷技術や部品実装技術を生かしたフレキシブルな「I.o.T」デバイス等の開発に注力し、通信関連やインフラ等の新規市場にも新たなモジュール製品を提案して参ります。



- ▶ 医療・ヘルスケア分野で需要が高まってきている、POCT（Point of Care Testing）で、将来的に様々な物質の測定に見込まれる「電気化学センサ」の技術確立を今後の柱の1つに育てて参ります。



事業成長のための研究開発と投資－設備投資拡充①

- 新市場への展開に向け、高度化・多様化するお客様ニーズに応えるべく環境に配慮した「モノづくり」体制の高度化を行う

赤穂
工場
・
本社



生産工場への積極的な投資

- ・ 新市場へ向けた新棟建設
- ・ クリーン環境での生産体制
- ・ 独自印刷技術のさらなる高度化
- ・ 品質管理体制の強化

エレメント技術の深化

- ・ 新たな市場への展開
- ・ 医療・ヘルスケア市場の拡大
- ・ アミューズメント市場の拡大
- ・ 高性能、高寿命、高品質のレベルアップ

自動車分野

自動車市場における
EV化への対応

医療・ヘルスケア分野

健康増進に向けた
予防医療への対応

チャレンジ分野

防災等社会課題解決に向けた
インフラビジネスへの対応

事業成長のための研究開発と投資－設備投資拡充②タイ工場インフラ投資

- 既存工場の建物を活かすためのインフラ整備投資として

ノーブルエレクトロニクスタイランド



投資予定額：
67百万バーツ
(日本円 約3億円)

組立エリア拡張

- ・ 資材倉庫の統合
- ・ 再配置倉庫跡地のクリーンルーム化（組立エリア化）
- ・ 動線を考慮した機器配置の見直し
- ・ レイアウト変更に伴う設備移設
- ・ 内装工事空調・照明・配線等インフラの整備見直し



- ・ 工場内レイアウト見直しに伴う生産効率向上
- ・ お客様のご要求に応えられる生産キャパシティ拡大（約1.5倍）
- ・ 高精度製品生産のためのクリーンルームの拡充

事業成長のための研究開発と投資－設備投資拡充②-2 タイ工場工事進捗状況

現在の進捗フェーズ

- ✓ 資材倉庫の統合・移設は完了。
- ✓ 旧倉庫エリアの解体・クリーンルーム基礎工事が進行中。

稼働開始予定

2026年4月予定



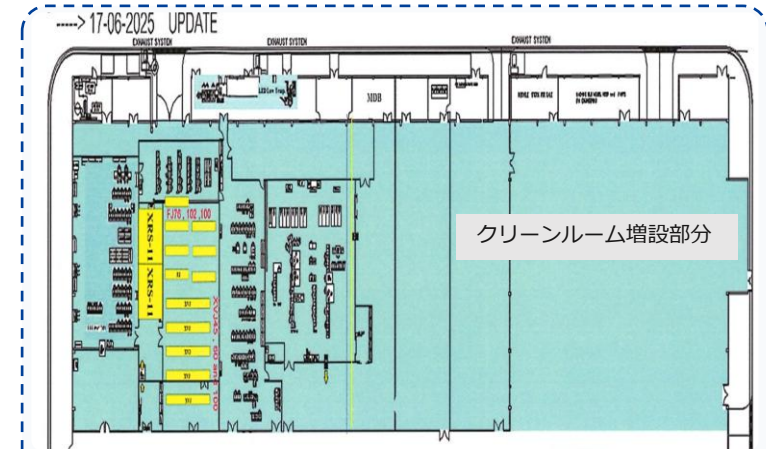
資材倉庫の統合

資材倉庫の統合・移設が概ね完了
生産効率の向上を実現



クリーンルームの増設

高精度製品の生産に対応するクリーンルーム
の基礎工事



完成イメージ図

導線を最適化し、生産効率を最大化した
将来の組立ライン

- 高度なコンタミ(異物混入)対策と「金型・成型・加飾・組立」の大規模一貫生産体制を備えるNOBLE ELECTRONICS THAILAND (タイの生産工場)

医療グレードの品質管理

医療機器製造基準に準拠した管理体制を構築。

チリやホコリを排除した**クリーンルーム**内での製造により、
高い品質が求められるセンサ、医療・ヘルスケア製品の量産
に対応します。



大規模一貫生産体制

主要部門を1拠点に集約することで、リードタイム短縮
とコスト最適化を実現します。

金型部門
Mold



成型部門
Molding



加飾部門
Decoration



組立部門
Assembly



事業成長のための研究開発と投資－設備投資拡充③赤穂工場概要

- 「フィルム印刷」をコア技術に、設計・金型・設備までを内製化する国内最大規模の自社一貫生産拠点



フィルム印刷 × 一貫生産

導体・抵抗体・レジスト等のスクリーン印刷技術をコアに、インクや版の製作から、プレス加工、組立、検査までを全て工場内で完結。これによりフレキシブルなライン構築が可能となり、高付加価値製品を最適なコストで提供できます。

医療レベルの品質とISO認定

高い技術が求められる自動車、アミューズメント機器、AV機器、医療・ヘルスケア向けのセンサやICB(カスタム)製品を製造。ISO9001/14001/13485認定工場の確かな品質で、good senseな製品を提供いたします。

- 赤穂工場の主力2製品のライン増設による生産能力と品質の同時強化

透明電極対応印刷機

増設



- ▶ **投資金額**：30百万円
- ▶ **投資背景**：透明電極機種の需要増加に対応
- ▶ **効果**：落射照明を用いた印刷技術による**無色インク電極の高精度な生産と品質安定化**を実現

車載向けドアミラーセンサ組立機

増設



- ▶ **投資金額**：32百万円
- ▶ **投資背景**：作業者の感覚に依存していた動作検査を**フォースゲージ**による**デジタル管理**へ移行し、品質の安定化・向上を図る
- ▶ **効果**：部品自動挿入、設備動作検査の**省人化**により、**15百万円/年**の**人件費削減**を見込む

本投資による3つの経営効果

↑ 生産能力拡充

BCP (事業継続計画) 強化

品質・歩留まり向上

IoT導入による現場変革の3本柱

✓ ペーパーレス化と情報共有

作業手順書・品質記録を**デジタル化**。

QRコードで製品仕様書に即時アクセス。

✓ 製造実績のリアルタイム可視化

製造実績を**自動収集・分析**し、即時改善活動に活用。

✓ 動作分析による教育の標準化

熟練工の作業を**動画撮影・動作分析**し、効率的な標準作業を確立。



タブレット活用で現場のDX化を促進

IoT投資による主要成果（実績）

▲ 社内不良率

品質改善・手戻り削減

20%↘
前年比 減少

🕒 段取り時間

生産効率の向上

30%↘
前年比 減少

📄 ペーパーコスト

用紙購入費用等の削減

72,000円
年間削減額 (SDGs貢献)

I R戦略とE S G

● 英文開示への対応をはじめとしたIR活動の継続的強化を実施

IR活動内容	頻度	対応時期	実施／予定
中期経営計画開示	5カ年計画	2021年5月11日開示 2022年5月11日修正版開示	実施・継続
中期経営計画英文開示	5カ年計画	2022年5月11日より実施	実施・継続
決算説明資料開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
決算説明資料英文開示	毎四半期	2021年3月期末決算より実施	実施・継続
新聞・業界紙・IR専門誌等への 広告掲載など	適時	JR品川駅・新横浜駅にサインボードとして広告を掲示 日経新聞、電波新聞等にインタビュー記事掲載 ダイヤモンドZAi24年10月号掲載	実施・継続
各種展示会出展など	随時	Medtec Japan2025、Well-bing Technology2025、 Taiwan Innotech Expo2024等国内外の展示会に出展	実施・継続
アナリスト向け決算説明会開催	毎半期	毎年、6月・12月頃	実施・継続
アナリスト向けIRミーティング	随時		実施・継続
個人投資家向けIR戦略	随時	個人投資家向け説明会2022年より実施（25年9月開催） 野村IR会員向け「トップの素顔」「IRレポート」掲示	実施・継続
新スローガン作成	随時	創業80周年に向けて企業スローガンを策定	実施・継続
資本提携等発表	随時	2021年に（株）S'UIMINと資本提携	実施・継続
成長戦略開示	－	中期経営計画の進捗（資本コストや株価を意識した経営の実現に 向けた対応） 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(進捗)	2024年5月 2025年5月
機関投資家向けSR面談	適時	2025年1月に実施（2026年1月も実施予定）	実施・継続
80周年誌刊行	－	ダイヤモンド・ビジネス企画社より発刊	2025年1月
統合報告書開示	年次	2025年11月28日に統合報告書をHPにて開示	2025年11月

創業80周年に向けた新スローガン

さあ、NOBLEと実現しよう。
Together, we make good sense.

NOBLE
帝国通信工業株式会社

「NOBLE WAY」

“構想力”
アイデア・開発設計・技術転用
独自技術により商品を開発

“実装力”
製品化・安価生産・高精度品質
一貫生産により量産を実現

とどまることのない
革新の80年、
最先端を支える
生産革新の歴史

80年
続いて
きた
革新

自動車、電化製品、
最新鋭一眼レフカメラ。
日本で生まれた
世界の大ヒット商品を
支えている企業、
それが帝国通信工業だ。

帝国通信工業・著

2025年1月に
ダイヤモンド社より
発売開始

誰にも見えないところで、
本当の革新は続いている。

- 長期ビジョン「新生NOBLE」への深化と進化に向けた持続的な価値創造ストーリー



価値創造の源泉「NOBLE WAY」

創業80年で培った「**構想力×実装力**」（エレメント技術と一貫生産体制）の融合による価値創造プロセスを図解。**3つのC**（Change, Challenge, Communicate）を行動指針とした変革ストーリーを開示しています。

社会課題解決型ビジネスへの挑戦

既存の自動車・アミューズメント市場に加え、**SleepTech**（睡眠検査）や**POCT**（医療・ヘルスケア）、IoT漏水センサ（社会インフラ）など、Good Sense Technologyで切り拓く新領域の成長戦略を提示します。

サステナビリティと資本政策の深化

2030年度GHG排出量50%削減目標や人的資本経営の推進に加え、**PBR改善**に向けた資本収益性の向上策、**役員スキルマトリックス**によるガバナンス強化策を明示しています。

↓ 当社HPにてPDF公開中

2027年国際園芸博覧会 (GREEN×EXPO 2027) への貢献

● 「幸せを創る明日の風景」の共創と地域への貢献活動

2027年3月に横浜で開催される「GREEN×EXPO 2027」の開催を応援し、寄附を決定いたしました。
本博覧会は、テーマ「幸せを創る明日の風景」の下、自然との調和を図り、持続可能な社会の実現を目指す世界的なイベントであり、当社のサステナビリティビジョンと深く共鳴するものです。

🌐 ブランド価値の向上と認知度拡大

来場者数1,000万人超
見込み

世界規模の博覧会における寄附者として、サステナビリティ先進企業としてのブランド認知を国内外で確立します。(企業名公表による効果)

💡 ビジョンへの共鳴と社会課題への貢献

EXPOの掲げる「自然との共生」や「持続可能な未来」の実現に向けた取り組みに賛同し、寄附金を通じてその実現に貢献します。

🌲 未来の風景を支える地域貢献

当社は神奈川県川崎市・長野県のグリーンボンドにも出資しています。

川崎市に本社を置く当社は、地域への感謝を忘れず、未来の神奈川の創造に貢献していきます。



GREEN×EXPO 2027を 応援しています

©Expo 2027

さあ、NOBLEと実現しよう。

Together, we make good sense.



今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。
ご清聴ありがとうございました。

帝国通信工業株式会社 代表取締役社長 羽生 満寿夫

お問合せ先：帝国通信工業株式会社 経理室
TEL: 044-422-3831
E-Mail: ir-info@ho.noble-j.co.jp